

KONICA

SII



コニカ SII の 使 い 方

お買上げくださいますありがとうございます。

コニカ S IIは近代的に洗練された美しいデザインの35ミリカメラで、どなたでもいちばん苦心する露出が、ファインダーを見ながら即座に決められる**完全連動の露出計**、**パララックス完全自動修正装置**のついたファインダー、**セルフタイマービルトインのMXフルシンクロシャッター**、すばらしい描写力の明るい**ヘキサノンレンズ**など、数々の特色をもち、初心者の方でも失敗なく傑作を写すことができます。

取扱い上のご注意

- 露出を決めるとき受光部を指先でふさがないようにしてください。
- 露出計受光部、ファインダー窓わくなどのプラスチック部分清拭のためにエーテル、シンナーを用いることは避けてください。少量のアルコールならば差支えありません。

目 次

コニカ S II 主要性能	4
各部の名称—1	6
各部の名称—2	7
各部の名称—3	8
各部の名称—4	9
巻上げレバーの操作	10
フィルムの入れ方	12
写 し 方	18
ピントの合わせ方とファインダーの見方	20
シャッターと絞り	22
連動露出計の使い方	24
セルフタイマーの使い方	30
フラッシュ同調撮影	31
被写界深度	34
フィルムの巻戻し	36

- 画面サイズ** 24×36ミリ
- 使用フィルム** 35ミリフィルム (J 135)パトローネ入り
- レンズ** ヘキサノンF 2 48ミリ
5群6枚構成 改良アンバーコーテッド
- シャッター** コパルSVE
B・1・2・4・8・15・30・60・125・
250・500倍数系列等間隔目盛MXフル
シンクロ セルフタイマー ビルトイン
- ファインダー
視野内の連動
露出計** 高性能反射光式電気露出計がフィルム
感度・シャッター速度および絞りの三
要素に完全連動し、ファインダー視野
内の指針を適正露出指標に合わせるゼ
ロメソッドで適正露出がたやすく決め
られます
- ピント合わせ** 一眼二重像合致式距離計連動、直進へ
リコイド方式
- ファインダー** パララックス完全自動修正ブライトフ
レームファインダー (倍率0.7×)

フィルム巻上げ 一作動によるレバー巻上げ、セルフコッキング（引出角20° 巻上角120°） 二重露出防止

その他 オートマチックフィルムカウンター、クランク式フィルム巻戻し、巻戻しボタン自動解除

フード かぶせ式専用フード（51ミリ）

フィルター ねじ込み式専用フィルター（49ミリ P=0.75）

カメラの大きさ 132×86.5×76ミリ

カメラの重量 730グラム

美しい調子の **さくらフィルム** をご愛用ください

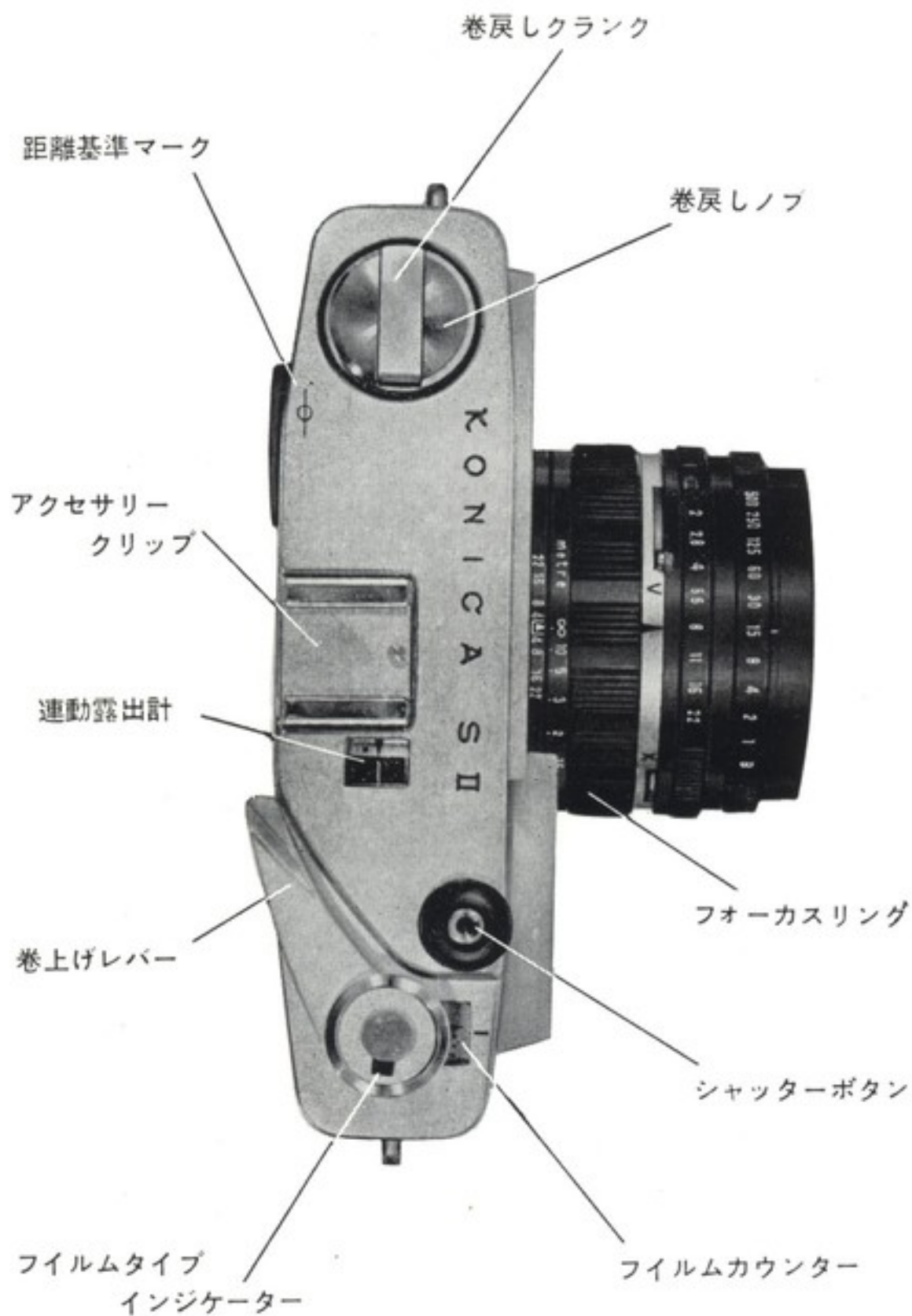
		ASA 露光指数	
		昼光	電燈光
コニパン	S	50	40
コニパン	SS	100	80
コニパン	SSS	200	160
さくらカラーネガティブ		50	
さくらカラーリバーサル		50	
コニパンリバーサル		40	32
さくら赤外750		感光極大750m μ 感光域640~820m μ	

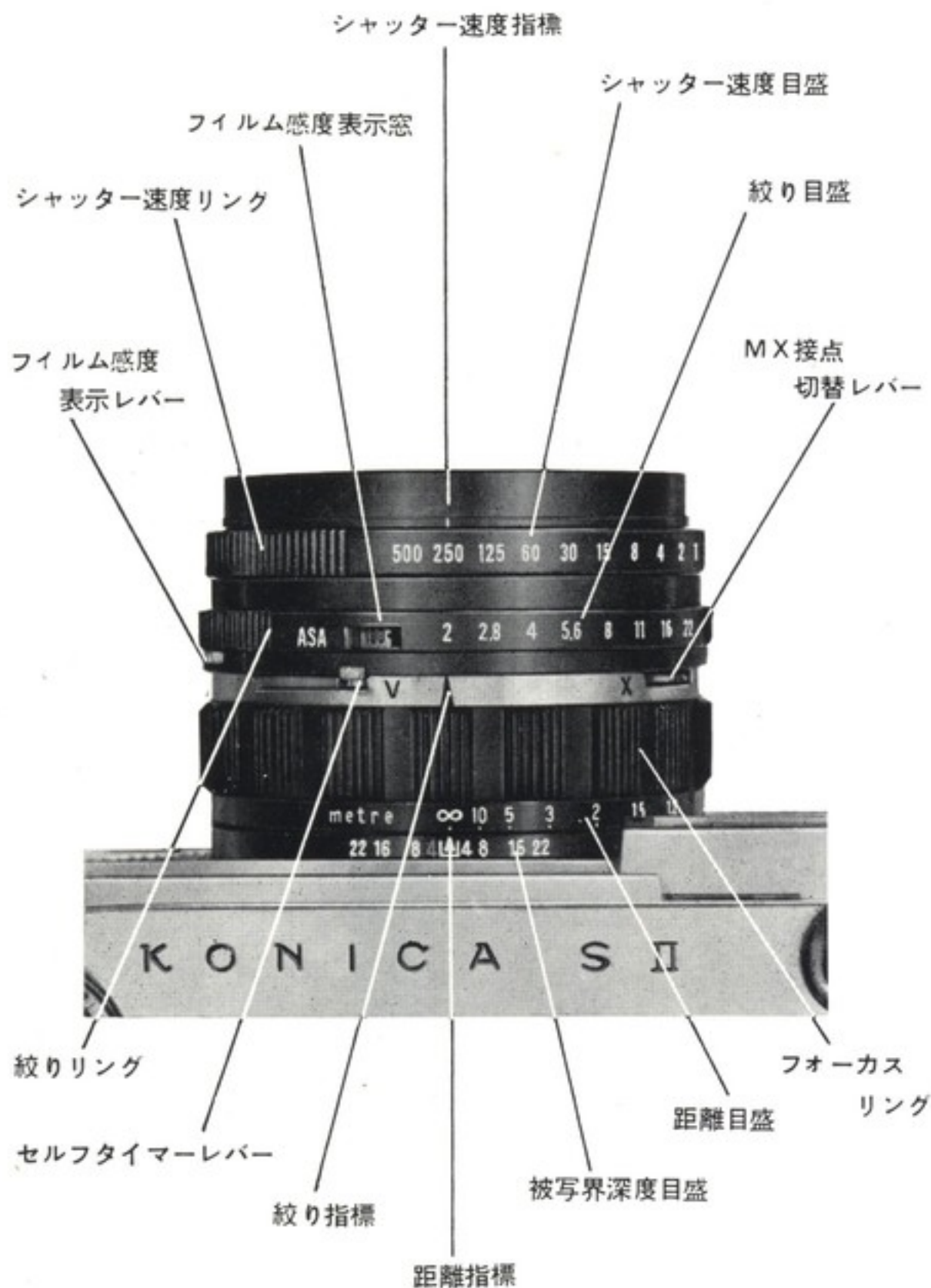


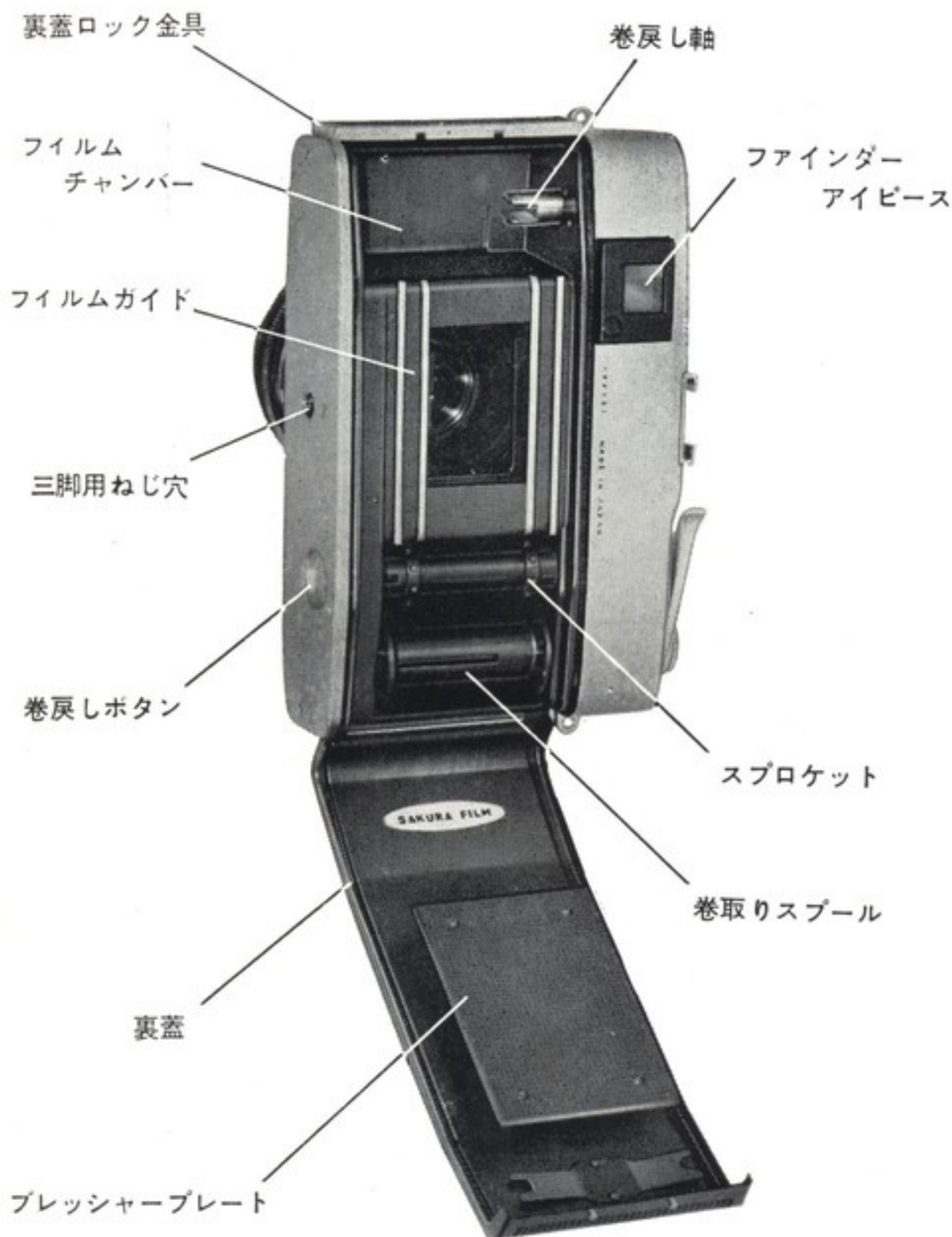
小西六写真工業

各部の名称 — 1

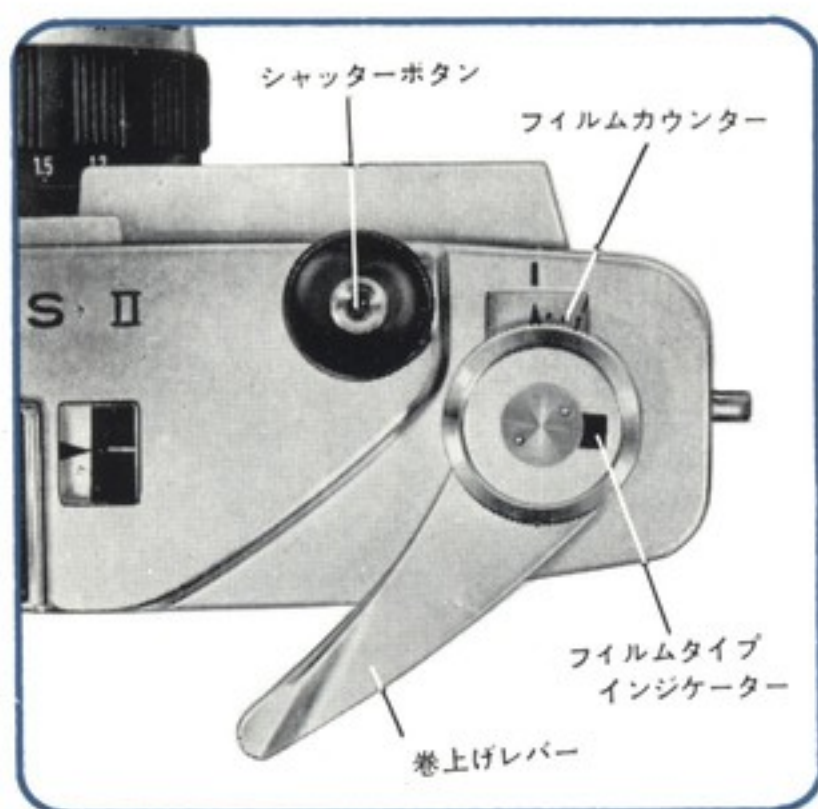








巻上げレバーの操作



- 巻上げレバーを止まる位置まで一作動するとフィルムがコマ巻上げられ同時にシャッターがチャージされます。
- フィルムカウンターは巻上げレバーを一作動するごとに一目盛ずつ進み36でフリーになり、撮影終了後フィルムを巻戻してから裏蓋を開けると自動的にスタートマーク（▲）に戻ります。
- 巻上げレバーは撮影直前に操作する習慣をつけてください。チャージしたまま長期間放置することはシ

シャッターのためによくないし、不用意にシャッターボタンを押し無用な露光をしたりします。

- シャッター速度の変更は巻上げの前後いずれでも差支えありません。
- フィルムが全部撮影済みになったとき、巻上げレバーが途中位置で止まることがあります。このときには巻戻しボタンを押したまま、巻上げレバーを止まる位置まで操作すれば元に戻ります。

フィルムタイプインジケーター

フィルムタイプインジケーターは、巻上げレバー基部のダイヤルを回すと小窓に黒・赤・青色が現われます。黒はモノクローム、青はカラーネガ、赤はカラーリバーサルフィルムを入れたときの識別に利用してください。

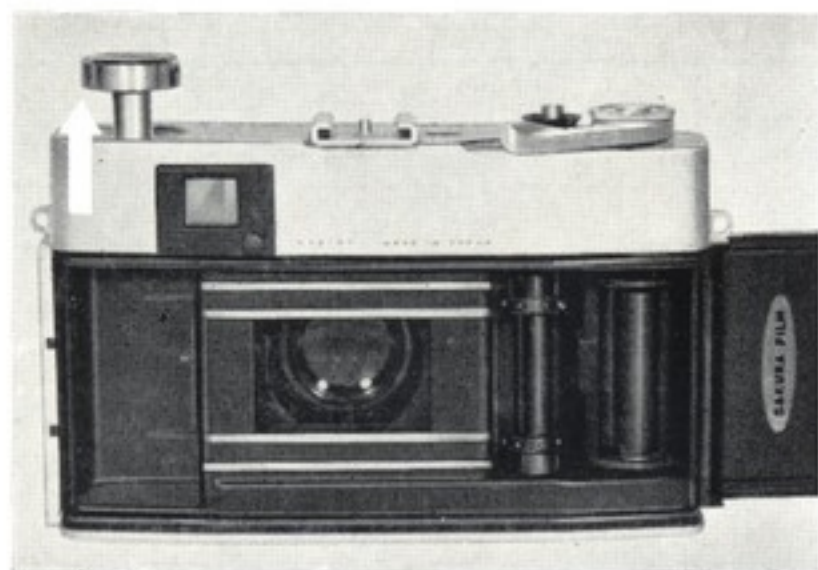
コニカSII専用コニフィルター

J I S 記 号	種類	色 別	露 出 倍 数		お も な 用 途
			昼 光	電 燈 光	
S L 39	U V	無 色	1.0	1.0	紫外線吸収用。レンズ保護のための常用フィルター
S Y 48	Y ₁	黄 色	1.5	1.2	人物、風景などの一般整色用フィルター
S Y 52	Y ₂	濃黄色	2.5	1.3	

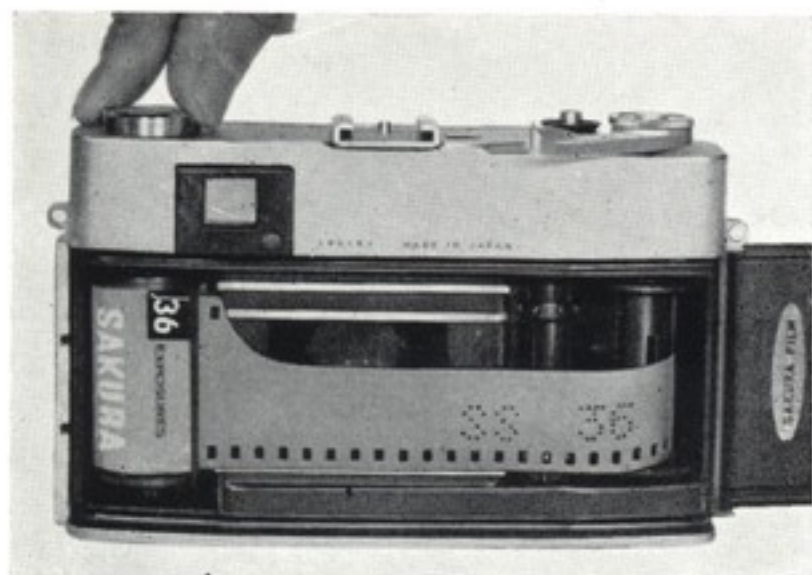
フイルムの入れ方

- コニカ S II はパトローネ入り 35 ミリフィルムを使用します。
- フィルムを入れるときは必ず日陰を選んでください。日陰のない場所では自分のからだの陰を利用するのも一つの方法です。

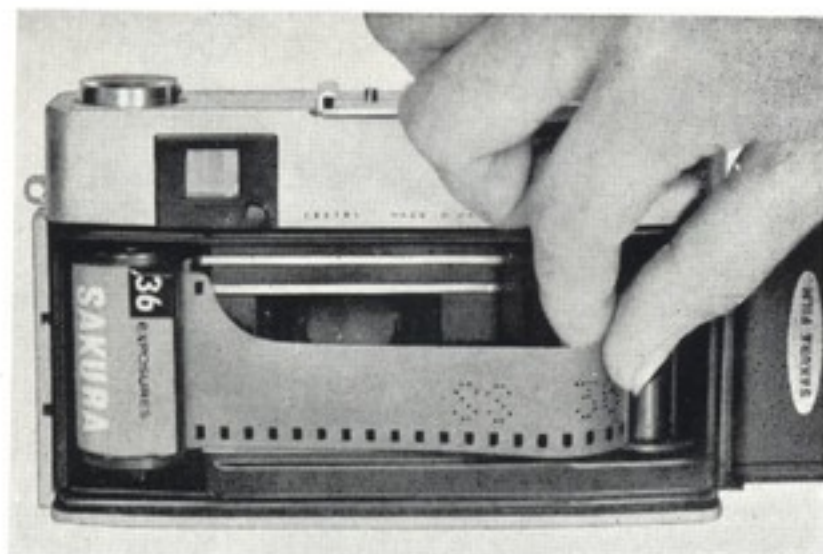
- ① 裏蓋ロック金具を引いてカメラの裏蓋を開き、巻戻し軸を押し出しておきます。



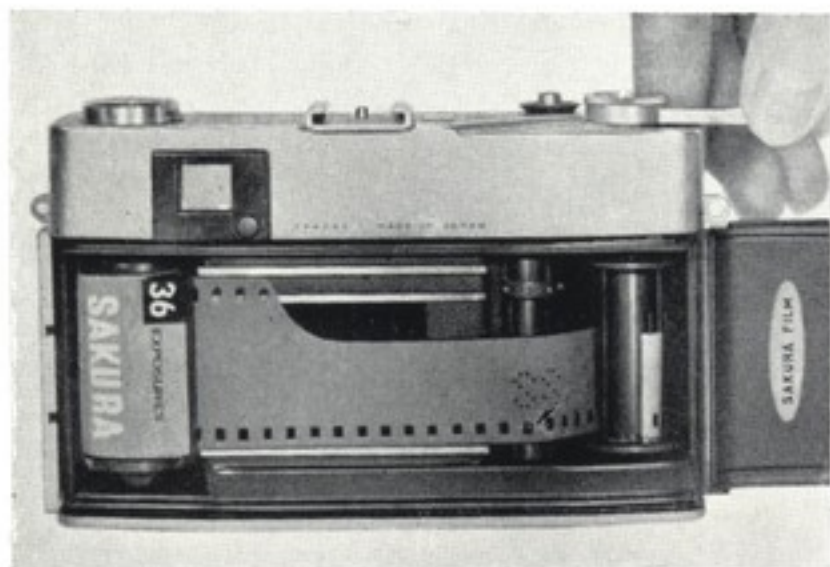
- ②パトローネをフィルムチャンバーに納め(パトローネの突起のほうをカメラ底部に向けて)、巻戻し軸を左右に少し回しながら元の位置に押し込み、



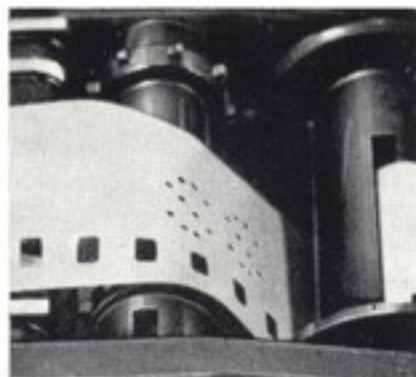
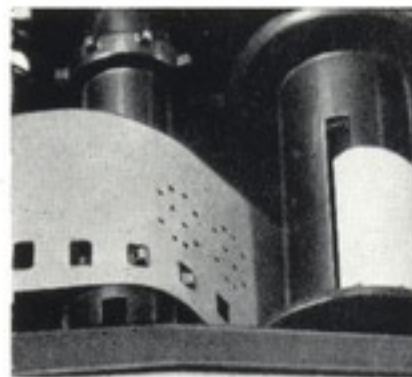
- ③フィルムの先端を巻取りスプールの端に合わせて溝に差し込み(巻取りスプールは空転しますから指先で回し溝を差し込みやすい位置にします)



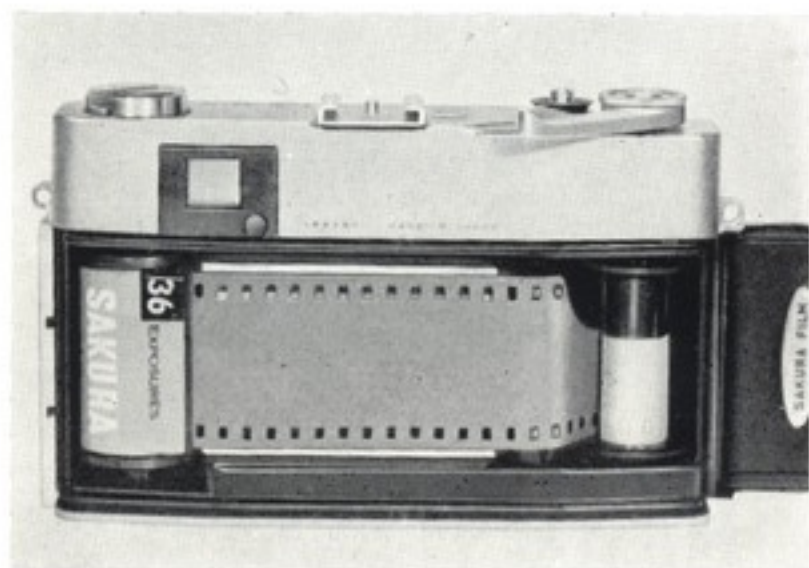
- ④ パーフォレーション（フィルムの穴）をスプロケットの歯に合わせながら巻上げレバーを操作すると、フィルムが巻取りスプールに巻かれます。



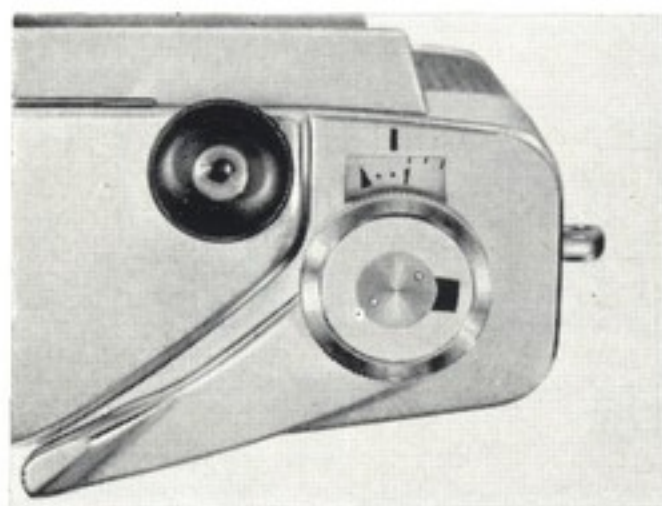
パーフォレーションをスプロケットの歯に合わせる。



- ⑤両側のパーフォレーションがスプロケットにかかったところで裏蓋を閉じ、巻戻しクランクを起し矢印の方向に回してフィルムのゆるみをなくしておきます。



- ⑥レバーを巻上げ、シャッターボタンを押す操作を二回繰返すとフィルムカウンターは1の手前の黒ポチを指しております。



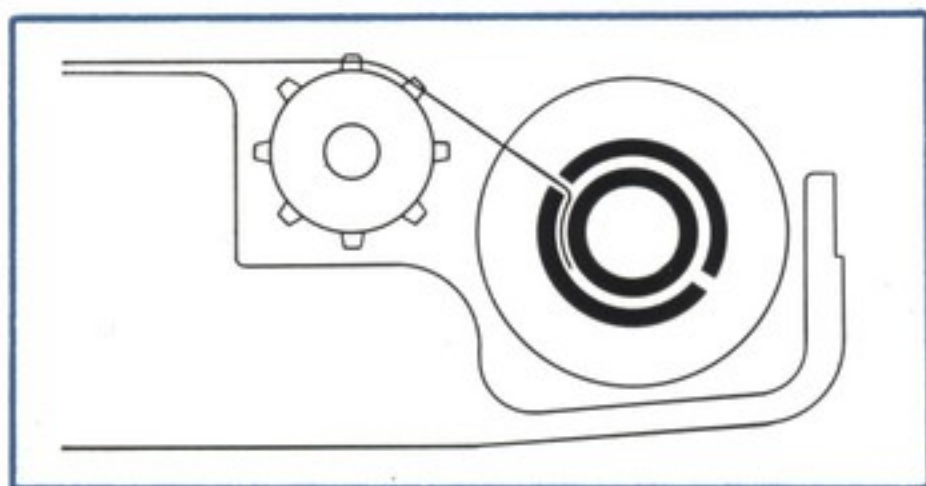
- ⑦フィルム感度表示窓に使用フィルムのASA露光指数を出しておきます。



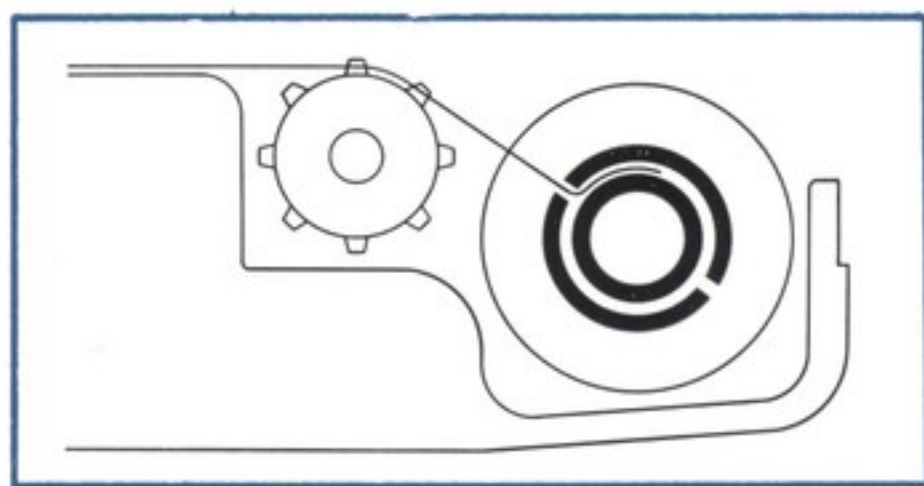
以上で撮影の準備ができました。

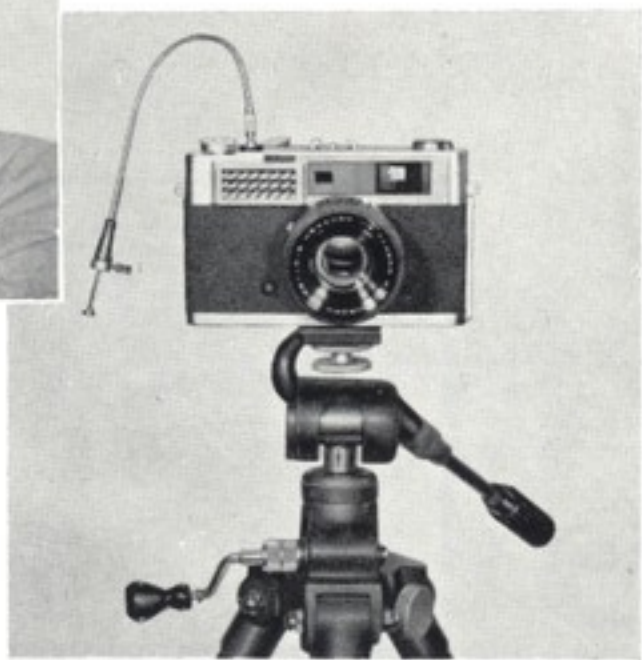
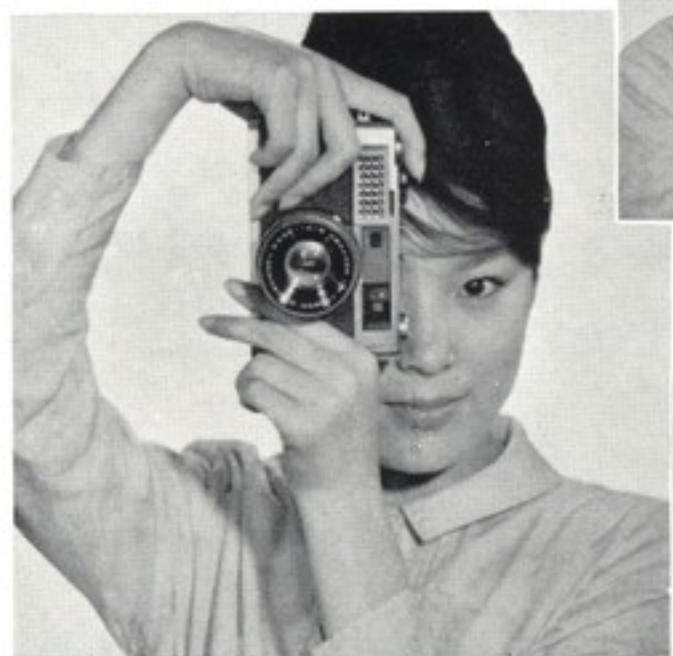
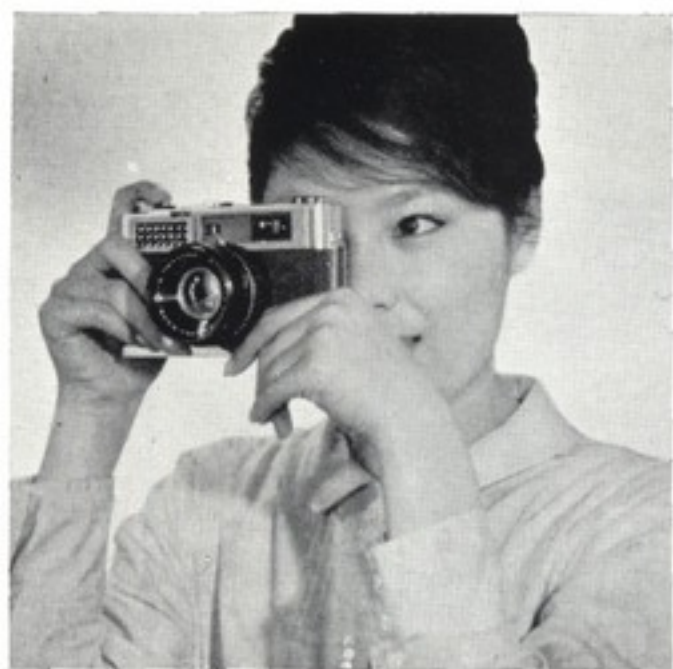
- 6の操作中フィルムが正しく巻上げられているときには巻戻しノブが反時計方向に回ります。もし回らなければフィルムが正しく巻上げられていないのですから、フィルムの入れ直しをしなければなりません。

- フィルムの先端を図示の方向に差し込んでおけば、巻戻し完了の際フィルムの先端が巻取りスプールから軽くはずれます。一般にはこの方向に差し込むようおすすめします。



- フィルムの先端を図示の方向に差し込んだときには、巻戻し完了の際フィルムが停止して巻取りスプールからはずれないため、むりに巻戻しクランクを回さなくて、裏蓋を開いて指先でフィルムの先端をはずしてください。





まず、フィルムをカメラに入れてから、シャッター速度目盛を希望する速度にセットし、カメラを被写体のほうに向け絞りリングを回して露出計の指針を適正露出指標に正しく合わせて露出を決めます。次にファインダーをのぞいたまま、フォーカスリングを回して被写体にピントを合わせます。

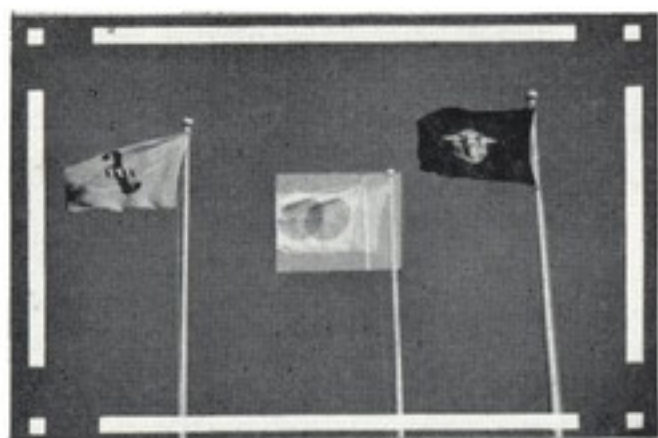
カメラは両手でしっかり持って手、鼻、ひたいなどでうまく顔に密着させて安定をはかり、ファインダーをのぞきブライトフレームの中で構図を決めて、カメラをブラさないように注意しながら静かにシャッターボタンを押します。これで撮影がすんだわけです。

巻上げレバーを巻上げてフィルムを1コマ送り次の撮影をおこない、こうして、フィルムの所定枚数の撮影がすんだならばフィルムの巻戻しをおこなって、カメラの裏蓋を開きパトローネを取り出します。

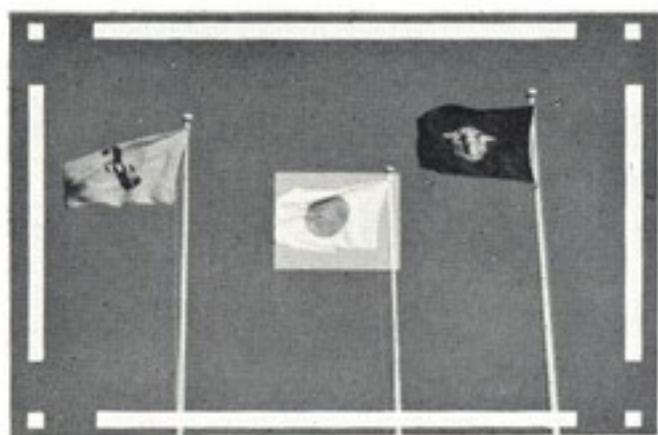
三脚を使用するときには、カメラ底部の三脚用ねじ穴に取付けます。ケーブルリリースはシャッターボタン中央のケーブルリリースソケットにねじ込んで使用します。

ピントの合わせ方と ファインダーの見方

ピントを合わせるにはファインダーをのぞきながらフォーカスリングを回しておこないます。



ピントが合っていないとき（ねらった被写体の二重像が分離している）



ピントが合ったとき（ねらった被写体の二重像が合致している）

ピントを合わせるにはファインダーをのぞきながらフォーカスリングを回すと、ファインダー中央部に見える被写体の二重像の一方の像が動きます。この二重像が完全に合致したときがピントの合ったときで、レンズのピントは正確にねらった被写体に合っております。

採光式ブライトフレームファインダーですから視野の中に明るく見えるブライトフレームによって撮影画面が区切られて見え、ブライトフレームは眼の位置による誤差がないためいつも撮影画面を正確に決定することができます。

パララックス完全自動修正

ファインダーをのぞきながらフォーカスリングを回すと、近距離になるにしたがってブライトフレームが、小さくなりながらレンズの光軸方向に移動するのが見られます。これはパララックス自動修正装置の働きによるもので、単にブライトフレームがそのまま動くだけでなく近距離における画角の違い（近距離になるにしたがってレンズが前進するため画角が狭くなる）まで自動的に修正がおこなわれる画期的なファインダーで、各距離においてファインダー視野と撮影画面は常に一致しております。

シャッターと絞り

シャッターはコパルSVEを装備しセルフタイマー、フルシンクロ機構をもっています。速度はシャッター速度リングを回して目盛を指標に合わせて決めます。シャッター速度目盛は瞬間露出の逆数を示してあり、1は1秒、2は $\frac{1}{2}$ 秒、125は $\frac{1}{125}$ 秒を表わしております。Bはバルブ露出といって、シャッターボタンを押せばシャッターが開き、放すと閉じるので1秒以上の露出に使用します。シャッター速度目盛は必ずクリックする目盛位置に合わせて使用してください。

シャッターの役目

- ① **動体を写し止める** 動きの速い被写体は速いシャッター速度で写さなければ被写体の動きによるぶれを生じます。同一動きに対しては近距離ほど高速シャッターを必要とします。
- ② **光量の調節** 絞りの役目と同じようにフィルム面に到達する光の量を調節します。同一絞りならばシャッター速度を一段遅くすることにより二倍の光量が入るわけです。

シャッター速度										
B	1	2	4	8	15	30	60	125	250	500

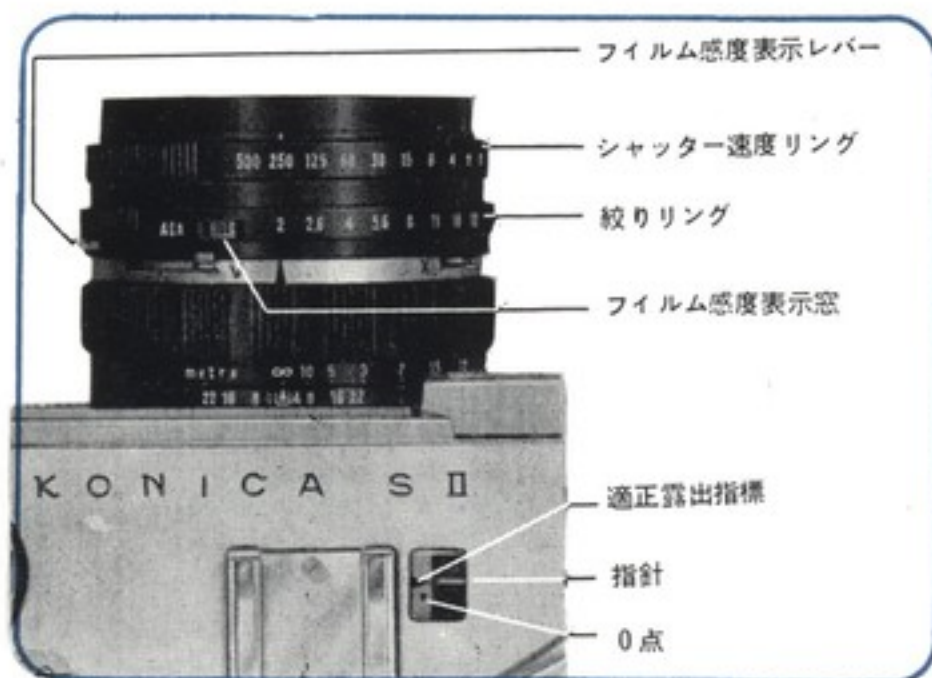
絞りは絞りリングを回して調節します。絞り目盛は等間隔目盛で1目盛変えるごとにレンズを通過する光量は半減または倍加する関係になっております。つまりF2.8はF2の半分の光量、F2.8はF4の2倍の光量となります。絞り口径は連続的に変るものですから中間位置でも使用できます。

絞りの役目

- ①光量の調節 眼の瞳孔が暗いところでは大きく開き、明るいところでは小さくなるのと同じように、露出計の指針を合わせることにより連動して暗いところでは大きく、明るいところでは小絞りになってフィルム面に到達する光の量を調節します。
- ②被写界深度の調節 一つの被写体にピントを合わせたとき、その前後においても鮮鋭に写る範囲(被写界深度)がありますが、絞りを小絞りにするほど被写界深度は深くなります。

絞 り 目 盛							
2	2.8	4	5.6	8	11	16	22

連動露出計の使い方



① 使用フィルムのASA露光指数をフィルム感度表示窓に正しく合わせておきます。

② シャッター速度リングを回し希望のシャッター速度にセットします。

③ ファインダーで被写体を見ながら、絞りリングを回して指針を適正露出指標に合わせると適正露出になる絞りの値が自動的に決まります。

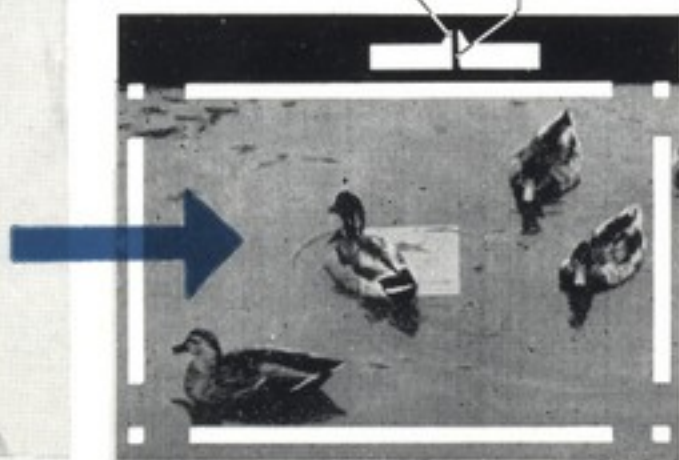


視野内指針も上部指針も操作は同じです。

普通の撮影の場合、シャッター速度を戸外では $\frac{1}{250}$ 秒、室内では $\frac{1}{30}$ 秒にセットしておきますと操作が楽におこなえます。



適正露出指標 — 視野内指針



コニカ S II の連動露出計は、電氣的抵抗方式による反射光式露出計で、フィルム感度、シャッター速度、絞りの三つの要素に完全連動する高性能を誇る電気露出計であります。指針はファインダー視野内およびカメラ上部に設けてあり、視野内指針によって撮影姿勢のまま、指針を適正露出指標に合致させるだけの簡単な操作で適正露出が決められます。

フィルム A S A 露光指数系列									
10	16	・	32	50	・	100	200	400	800

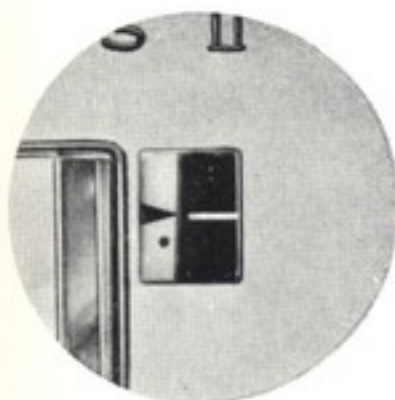
16と32および50と100の中間の点はそれぞれ A S A 25 および80相当の目盛です。

- 視野内指針は絞りリングの回転と同一方向に動きま
すから、適正露出指標に合わせる場合、その方向に
絞りリングを回して合わせます。そして、絞りだけ
で調節しきれないときには、シャッター速度を変え
て、再び絞りのほうで微調整をおこなって合わせて
ください。

露出を決めるとき受光部を指先でふさがないように注意してください。



上部指針の場合には、
カメラを被写体に向け
て指針を適正露出指標
に合わせます。



■被写界深度を利用するため絞りを先に決めたいときは、あらかじめ希望の絞りをセットし、シャッター速度リングを回して露出計の指針を合わせます。(シャッター速度目盛の中間に位置した場合は、中間速度は使えないため、クリック位置まで送り絞りの方で微調整をおこないます。)

■フィルター使用に際し露光量の増加を必要とするときは、いったん露出計を合わせてから、絞り目盛で調整します。連続してフィルターを使用するときには、フィルターの露光量増加分だけ下げたASA露光指数をフィルム感度表示窓に出しておくのも一つの方法です。

〔例〕露光指数ASA 100のフィルムで露出倍数4倍のフィルターを連続使用する場合、 $\frac{ASA\ 100}{4} = ASA\ 25$ をフィルム感度表示窓に出しておき、露出計の指示どおりで撮影すればよいわけです。

■明るい空を多く含む構図の風景、あるいは非常に明るい背景の人物などの場合には、明るい外光の影響を受けないように、地上に露出を合わせるか、あるいは人物に近づいて露出を決めたほうが好結果が得

られます。

■ コニカ S II の連動露出計はカラーフィルムにも適しており、露出の決め方はモノクロームフィルムの場合と同様です。

■ 露出計指標板の黒点は 0 点（零点）を示したもので、受光部を完全におおうと指針はこの位置まで戻ります。

■ 露出計の連動範囲は、ASA 100 のとき LV 7 から LV 17 の間で絞りとシャッターに連動します。

露出計連動範囲一覧表

（フィルム露光指数 ASA 100 のとき）

FNO LV	2	2.8	4	5.6	8	11	16	22
7	30	15	8	4	2	1		
8	60	30	15	8	4	2	1	
9	125	60	30	15	8	4	2	1
10	250	125	60	30	15	8	4	2
11	500	250	125	60	30	15	8	4
12		500	250	125	60	30	15	8
13			500	250	125	60	30	15
14				500	250	125	60	30
15					500	250	125	60
16	(SHUTTER SPEED)					500	250	125
17							500	250

セルフタイマーの使い方



M X接点切替レバーをXの位置にし、セルフタイマーレバー（V）をセットし、シャッターボタンを押すとセルフタイマーが作動し約10秒経過してシャッターがきれます。

セルフタイマーは記念撮影に利用するほかにも接写や顕微鏡写真撮影などのように、シャッターをきる際のカメラぶれを極度に警戒しなければならない場合に使用しても効果があります。

- セルフタイマーはB以外の各速度で使用できます。
- M接点の位置ではセルフタイマーは使えません。
- セルフタイマーはレバーを途中位置までのセットでも使えますから、作動時間を短かくしたいときにはセット量を少なくします。

フラッシュ同調撮影を行うときには、フラッシュガンのコードをカメラボデーにあるフラッシュ接続ソケットに接続します。



M級フラッシュバルブ
を使用する場合には、シャッターのMX接点切替レバーをMの位置にセットし、ストロボ（閃光放電管）を使用するときにはXの位置にセットしてください。



フラッシュ同調表

接点 バルブ		シャッター速度									
		1	2	4	8	15	30	60	125	250	500
M	M 級	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
X	ストロボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	F 級	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×
	M 級	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×

○印……使用可能 ×印……使用不可能

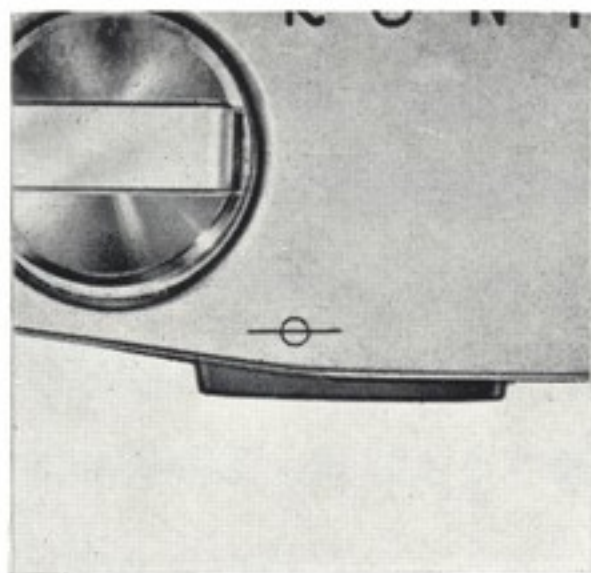
- ストロボおよびF級フラッシュバルブはM接点では同調しませんから、必ず同調表参照の上使い分けてください。
- MX接点切替レバーは、同調撮影時以外はMXのどちらの位置にセットしておいても差支えありません。
- セルフタイマーはX接点の位置だけで作動するため、セルフタイマー使用による同調撮影は、ストロボならば最高速度まで同調可能ですが、フラッシュバルブ使用の場合はフラッシュ同調表を参照してください。

フラッシュ同調撮影はフラッシュバルブの発光を光源として写すのですから、フラッシュバルブの光の強さと被写体までの距離に応じて絞りの調節によって露出を決めます。フラッシュバルブの使用説明書にはガイドナンバーが示されておりますから、このガイドナンバーを光源から被写体までの距離で割ったものが、そのときの適正絞り数値になります。

たとえば、マツダスーパー0を使用し、コニパンSSを用いて $\frac{1}{60}$ 秒以下のシャッターをきるときのガイドナンバーは42ですから、距離5メートルでは $42 \div 5 \doteq 8$ となり、F8が適正絞りと判断されます。

距離基準マーク

被写体距離はこのマーク(⊕)を基準にして表示されており、フィルム位置になっております。

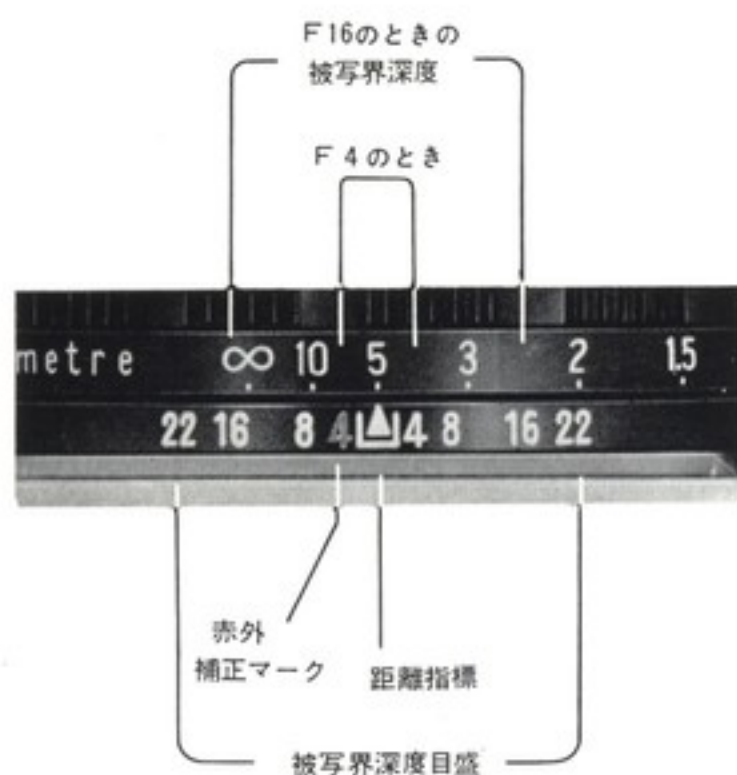


一つの被写体にピントを合わせたとき、その前後においても実用上鮮鋭に写る範囲があります。この鮮鋭に写る範囲を被写界深度といいます。

そして被写界深度は次のような性質をもっています。

- 一定距離においては絞りを絞るほど深度は深く、絞りを大きく開くほど浅くなる。
- 一定の絞りならば被写体までの距離が遠いほど深く近距離においては浅くなる。
- ピントを合わせた被写体の後方に深く前方には浅い。

被写界深度は被写界深度目盛によって知ることができます。距離指標を中心として両側に絞り目盛が記してありますが、使用する絞りの値に囲まれた距離の範囲が被写界深度になります。たとえば被写体までの距離が5メートルであったとすると、F4のときには4メートルから7メートルまでの間は鮮鋭に写り、F16に絞ると2.5メートルから ∞ （無限遠）までが被写界深度に入ることがわかります。



人物撮影で背景をボカしたいとき、あるいは奥行きのある集合人物撮影にあたって前列から後列まで鮮鋭に写したい場合などに活用できます。

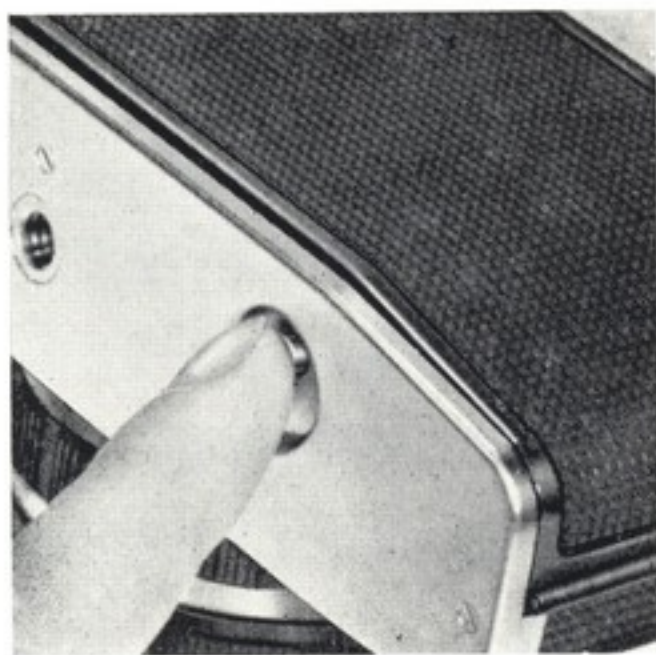
赤外補正マーク

赤外フィルムにより赤色系フィルターを用いた赤外線写真撮影の場合には、普通にピントを合わせた後、距離指標で距離目盛を読み、その読み目盛を赤外補正マーク（赤文字の4）まで移動すれば正しいピントが得られます。

フイルムの巻戻し

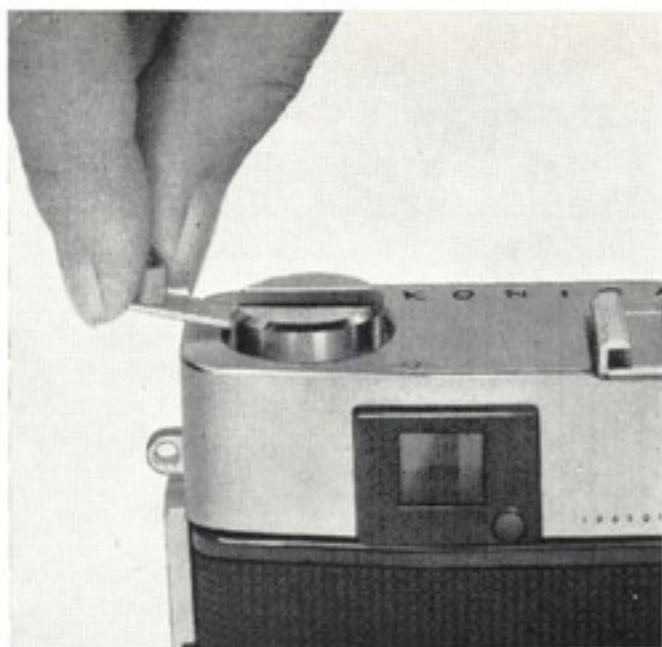
- フイルムを全部撮影し終ると巻上げレバーは動かなくなりますから、むりに動かさないでフイルムを巻戻します。
- フイルム終了の最後の巻上げに際し巻上げレバーが途中で止ったときには、巻戻しボタンを押したまま巻上げレバーを止まる位置まで操作すれば元に戻ります。

- 1 ① ① ①
まず巻戻しボタンを押し（自動解除のため一度押せばよい）



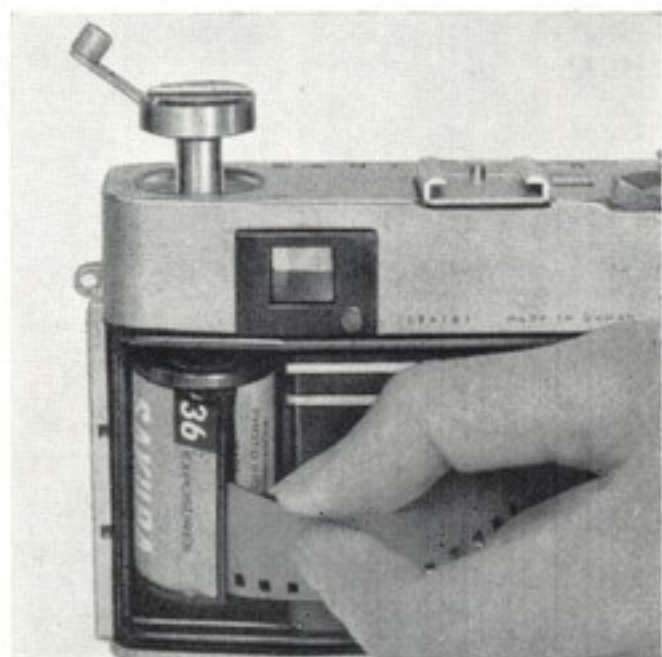
②

巻戻しクランクを起して矢印の方向に回転するとフィルムはもとのパトローネに巻戻せます。



③

次に裏蓋を開き、巻戻しノブを引出してパトローネを取出します。



- フィルムが巻取りスプールからはずれるときには一度重くなって急に軽くなります。フィルムのリーダー部分を残しておくにはこのときに巻戻し操作を停止します。
- パトローネをカメラから取出すときには日陰で操作してください。

被 写 界 深 度 表

ヘキサノン F2 48ミリ 許容錯乱内直径 ϕ 60ミリ(メートル)

Meter F. No.	0.9	1.0	1.2	1.5	2.0	3.0	5.0	10.0	∞
2	0.89	0.98	1.17	1.45	1.91	2.78	4.41	7.85	35.74
	0.92	1.03	1.24	1.56	2.11	3.27	5.79	13.82	∞
2.8	0.88	0.97	1.16	1.43	1.87	2.71	4.21	7.23	25.56
	0.93	1.04	1.25	1.59	2.16	3.38	6.17	16.31	∞
4	0.87	0.96	1.14	1.40	1.82	2.60	3.94	6.48	17.92
	0.94	1.05	1.28	1.62	2.23	3.57	6.82	22.40	∞
5.6	0.86	0.94	1.11	1.36	1.75	2.46	3.64	5.67	12.83
	0.96	1.07	1.31	1.68	2.34	3.86	8.08	44.77	∞
8	0.84	0.92	1.08	1.31	1.67	2.29	3.26	4.79	9.91
	0.98	1.11	1.36	1.77	2.52	4.41	11.02	∞	∞
11	0.81	0.89	1.04	1.25	1.57	2.10	2.89	4.01	6.58
	1.02	1.15	1.43	1.89	2.80	5.37	20.31	∞	∞
16	0.78	0.85	0.98	1.17	1.43	1.86	2.43	3.17	4.55
	1.08	1.23	1.57	2.15	3.43	8.46	∞	∞	∞
22	0.74	0.81	0.92	1.08	1.30	1.63	2.05	2.54	3.34
	1.17	1.35	1.78	2.58	4.73	29.21	∞	∞	∞

(F2 48)

コニカSII専用アクセサリ (別売)

コニフード かぶせ式 51ミリ

コニフィルター ねじ込み式 49ミリ P=0.75
種類……SL39(UV)・SY48(Y₁)・SY52(Y₂)

オートアップ 接写用レンズで、カメラに取付けると距離計連動で人物、草花等のクローズアップや文書の複写などが簡単におこなえます。

接写装置 精密な接写、複写用の装置で文書、図書、標本等の接写や複写に最適です。

接写用枠3コ、脚4、カメラ保持具、接写用レンズ、レリーズがセットになっております。

当社の製品は厳密なる検査を経て出荷されたものでありますが、万一故障あるいは不審の点を発見した場合には、できるだけ当社宛にご送付ご用命ください。その際、現品は元どおり箱に納め、厚さ20ミリぐらいの衝撃防止になるパッキングで包み、段ボールまたは木箱に入れてお送りください。



小西六写真工業株式会社

東京サービスステーション	東京都中央区日本橋室町3-1 (東京営業所内) 電話 東京(241) 4181(代) 7261(代)
大阪サービスステーション	大阪市南区長堀橋筋1-46 (大阪営業所内) 電話 大阪(27) 0451(代)
福岡営業所	福岡市下呉服町1-3 電話 福岡(2) 5535-7
名古屋営業所	名古屋市中区南大津通1-11 (千代田ビル内) 電話 名古屋(24) 7321-4
札幌営業所	札幌市北二条西2-32 電話 札幌(2) 4492 (3) 3562 (4) 4659

M E M O

レンズ No.	
ボデー No.	

KONICA



小西六写真工業株式会社

東京都中央区日本橋室町3-1

電話 東京(241) 4181(代), 7261(代)